

第13回

バナナ・果物

消費動向調査

日本バナナ輸入組合



2017年7月

(8月7日はバナナの日)

目次

調査概要	2
調査結果	
よく食べる果物	3
果物を食べる頻度	3
バナナを食べることが多いタイミング	4
朝食に食べるもの	4
バナナを食べる頻度	5
この1年でバナナを食べる頻度(量)が変化した理由	5
バナナを食べる理由	6
知られているバナナの栄養素	6
知られているバナナの効果・効能	7
気になるバナナの効果・効能	7
知られているバナナの効果・効能×気になるバナナの効果・効能	8
バナナを買うときの基準	8
統計資料	9

調査概要

●調査目的

本年で13回目の調査となる『バナナ・果物消費動向調査』では、例年に引き続き、バナナの食用実態や購入実態の把握を目的とするとともに、バナナの栄養素や効果・効能、熟度、さらにはバナナの若返りへの効用に対する一般消費者の認知度についても調べました。

●サマリー

バナナは13年連続よく食べる果物で1位となりました。

バナナの栄養素としては、昨年から若干順位が変動しているものの、引き続き「食物繊維」「糖質」「カリウム」などの認知度が高く、気になるバナナの効果・効能としては、「免疫力を高める」「豊富な食物繊維により消化を助ける」などが上位を維持しています。

●調査対象：全国16歳以上の男女

●調査時期：2017年6月27日（火）～ 2017年6月29日（木）

●調査方法：インターネット

●属性割付：

		人数
合計		1,442
性別	男	721
	女	721
性別×年齢層	男-10代	103
	男-20代	103
	男-30代	103
	男-40代	103
	男-50代	103
	男-60代	103
	男-70歳以上	103
	女-10代	103
	女-20代	103
	女-30代	103
	女-40代	103
	女-50代	103
	女-60代	103
	女-70歳以上	103

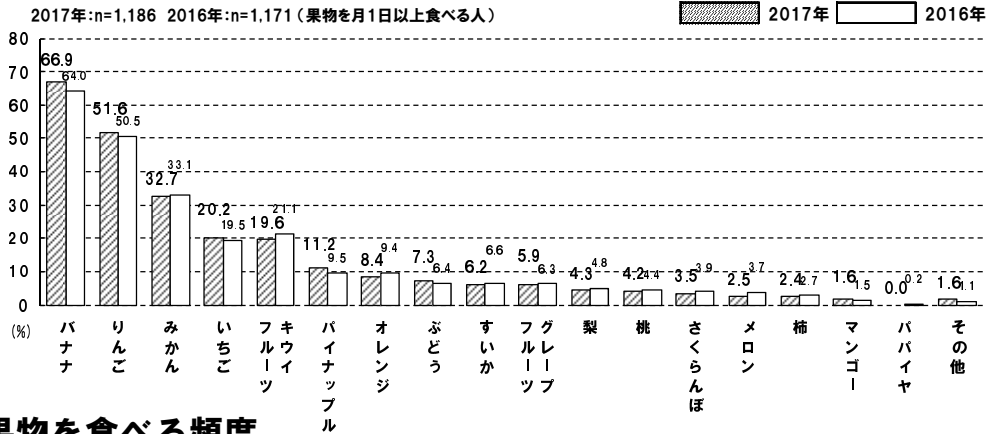
上記の他、本年独自の検証項目のために『子あり女性20～49歳』309サンプルを取得しましたが、当冊子掲載項目には含まれないため、表記を略しました。

よく食べる果物

「バナナ」…約67%、「りんご」…約52%、「みかん」…約33%

バナナは回答者の6割以上がよく食べる果物として挙げており、13年連続、よく食べる果物の1位です。

Q. あなたがよく食べる果物をお選びください。(複数回答/3つまで)



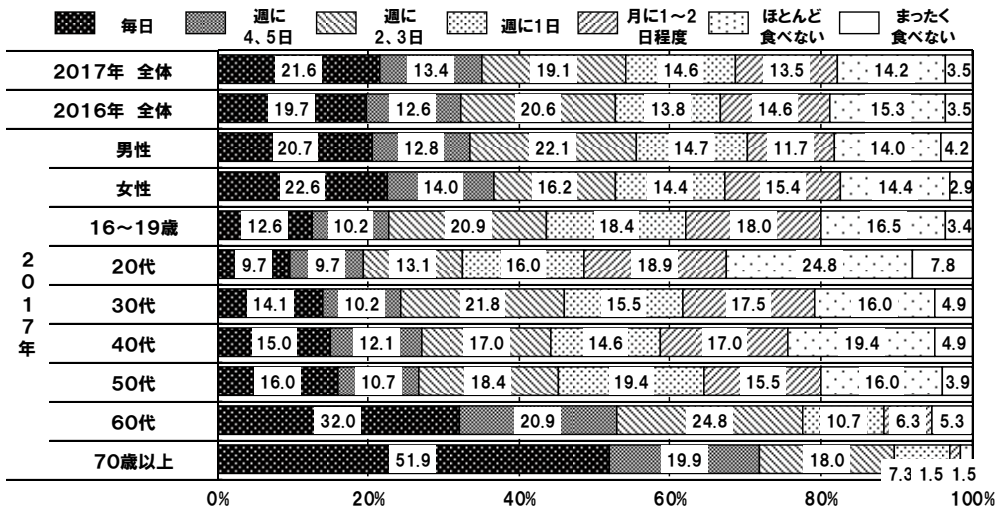
果物を食べる頻度

「毎日」が約22%、「週4、5日」が約13%で、全体の約3分の1が「週に4、5日以上」果物を食べています。

「毎日」果物を食べる人は、男性よりも女性が多く、また、年齢が高くなるほど増える傾向がみられます。

Q. あなたはどのくらいの頻度で果物を食べますか。(単一回答)

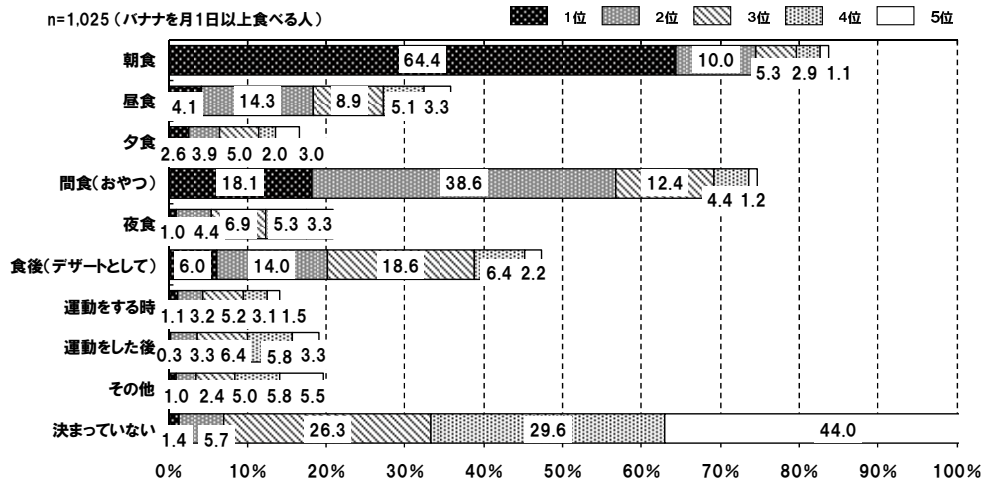
n=1,442 (全員回答)



バナナを食べることが多いタイミング

バナナを食べるタイミングの1位をみると、「朝食」が約64%と極めて高く、次いで、「間食(おやつ)」が約18%となっています。

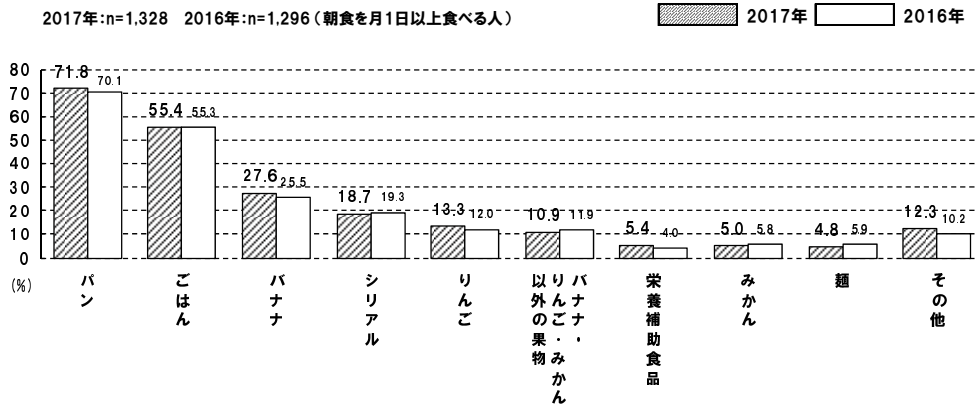
Q. あなたはバナナをいつ食べる人が多いですか。(食べる人が多い順に5位まで)(各単一回答)



朝食に食べるもの

「パン」が約72%で最も高く、以下、「ごはん」約55%、「バナナ」約28%と続いています。時系列でみると、2017年度は、2016年度と比べて「ごはん」の割合がほぼ横這いで推移し、「バナナ」「パン」の割合はやや増加しています。

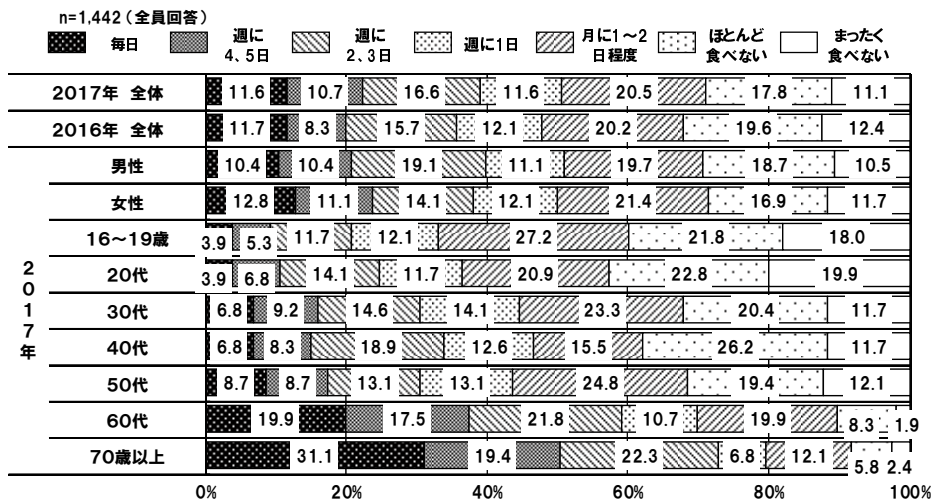
Q. あなたは朝食にどんなものを食べますか。(複数回答)



バナナを食べる頻度

「月1～2日程度」が約21%と最も多く、「ほとんど食べない」が約18%で続いています。60代以上では約7割がバナナを「週1日」以上食べていると回答しています。

Q. あなたはどのくらいの頻度でバナナを食べていますか。(単一回答)



この1年でバナナを食べる頻度(量)が変化した理由

「非常に増えた」「やや増えた」をあわせて約33%、「やや減った」「非常に減った」をあわせて約23%でした。

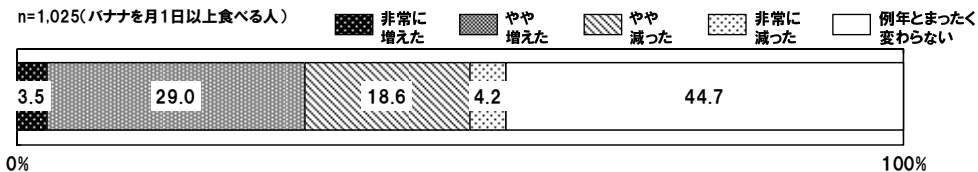
増減理由の傾向は下記の通りで、“価格が高い”ことや“一人暮らしになった”ことが減少の一因となっています。また、“とくに理由はない”といった漠然とした理由も目立ちます。

Q. この一年で、あなたのバナナを食べる頻度(量)はどのように変化しましたか。(単一回答)

Q. この一年で、あなたがバナナを食べる頻度(量)が変化した理由をお書きください。(自由回答)

■ 増減

n=1,025 (バナナを月1日以上食べる人)



■ 増減理由の傾向 (自由回答を整理)

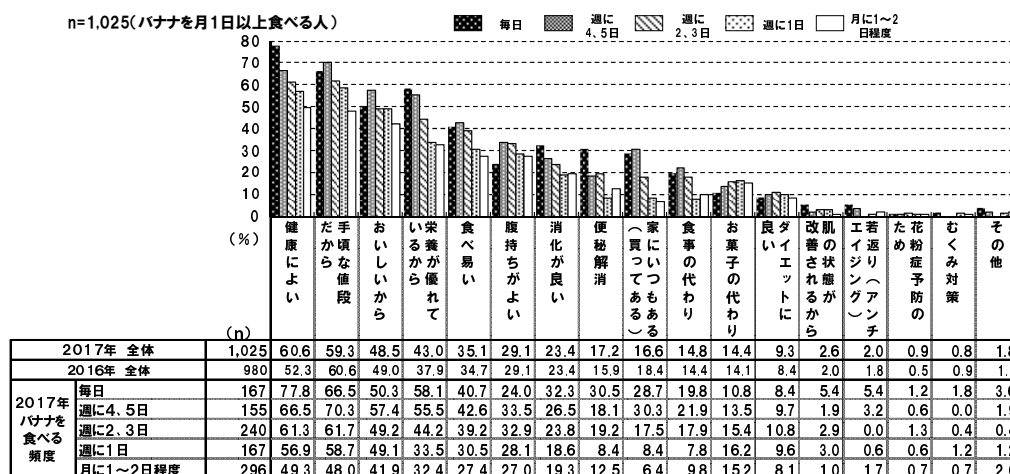
非常に増えた理由(48名)	やや増えた理由(317名)	やや減った理由(250名)	非常に減った理由(95名)
<ul style="list-style-type: none"> ・子供が食べる、離乳食 ・安い、手順、経済的 ・毎日食べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が食べる、離乳食 ・安い、手順、経済的 ・毎日食べる ・健康(体)に良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・高い、値上がりした ・とくに理由はない 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしになった ・高い、値上がりした

バナナを食べる理由

「健康によい」が約61%でトップ。以下、「手頃な値段だから」約59%、「おいしいから」約49%などが上位に挙げられています。

「健康によい」や「栄養が優れているから」は、バナナを食べる頻度が高くなるほど増えています。

Q. あなたがバナナを食べる理由をお選びください。(複数回答)

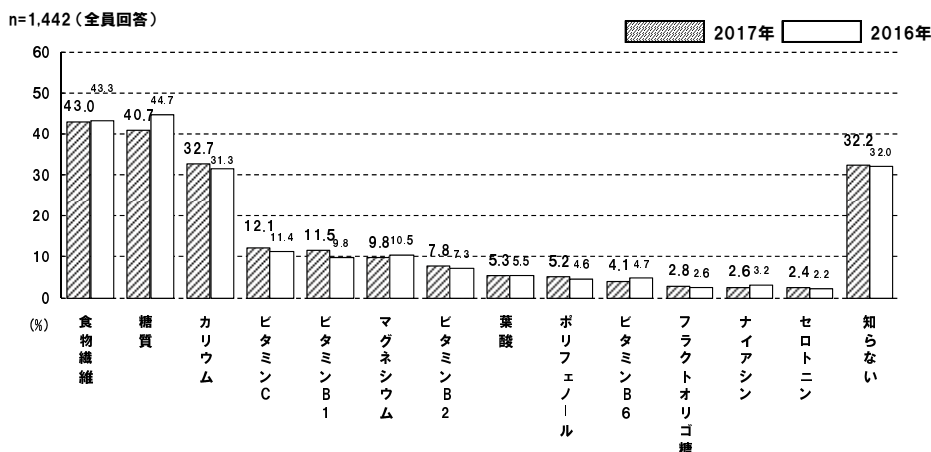


知られているバナナの栄養素

「食物繊維」が約43%で最も多く、次いで「糖質」が約41%、「カリウム」が約33%となっています。

時系列でみると、2017年度は2016年度と比べ、全体的に横這いで推移していますが、「糖質」では認知度の低下が目立ちます。

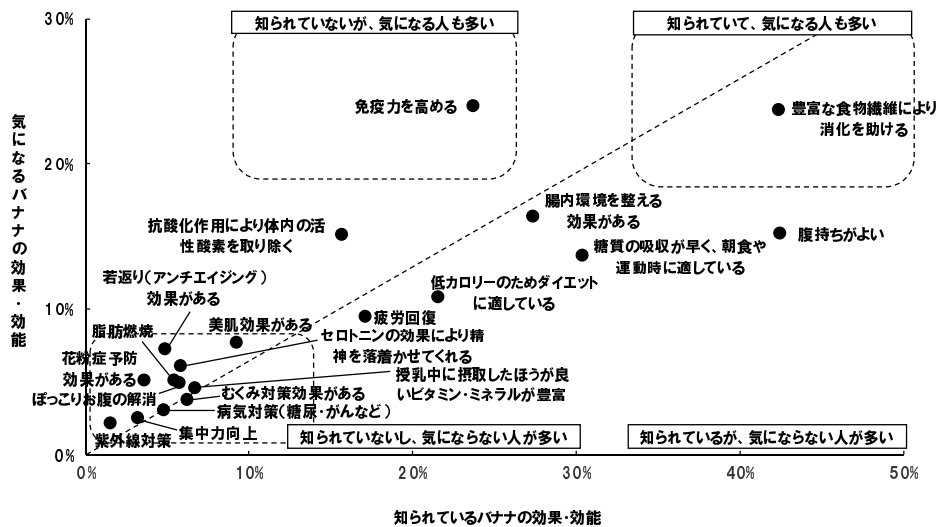
Q. あなたが知っているバナナの栄養素をお選びください。(複数回答)



知られているバナナの効果・効能×気になるバナナの効果・効能

下の図は、バナナの効果・効能について、知られているものと気になるものの割合の関係を示したものです。

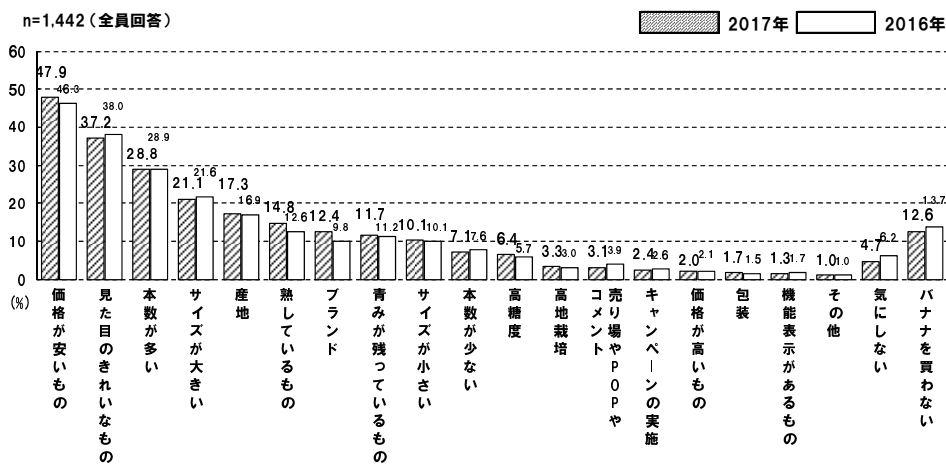
『知られていないが、気になる人も多い』効果・効能としては、「免疫力を高める」が挙げられます。



バナナを買うときの基準

「価格が安いもの」が約48%で最も高く、以下、「見た目がきれいなもの」約37%、「本数が多い」約29%、「サイズが大きい」約21%が続いています。

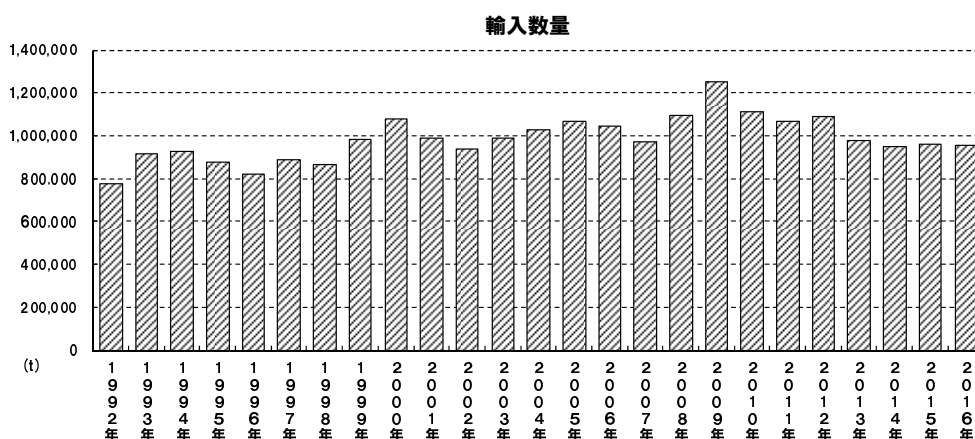
Q. あなたがバナナを買う時の基準をお選びください。(複数回答)



統計資料(財務省貿易統計・総務省統計局家計調査より)

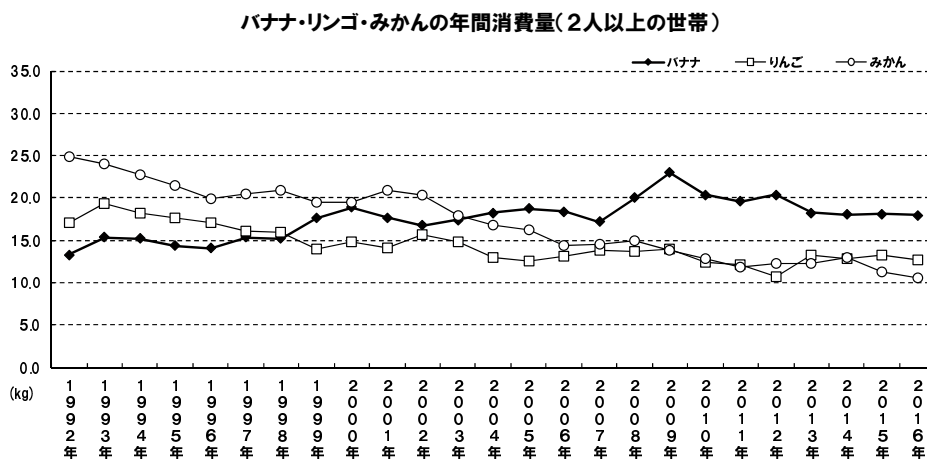
財務省貿易統計

財務省貿易統計のデータによると、2016年のバナナ輸入数量は約96万トンでした。前年に比べ微減となっており、輸入量は4年連続100万トンを割る水準となっています。



総務省統計局家計調査 (世帯区分: 2人以上の世帯)

果物の中で、バナナは年間消費量首位の座にありますが、2016年の年間消費量は約18.0kgで、2013年に20kgを下回って以降、横ばいで推移します。他の果物ではりんご、みかんはともに減少となっています。かつては、みかんがりんごを上回っていましたが、2015年以降、消費量は、りんごがみかんを超えるようになりました。



発行

日本バナナ輸入組合

東京都千代田区内神田1-3-1 トーハン第三ビル

お問合せ先

日本バナナ輸入組合広報室

TEL03-5577-4765

バナナ大学ホームページ <http://www.banana.co.jp>